

紫陽花



梅雨の季節となりました。雨の日が続くとなかなか外出する気分にもなれず、何となく憂鬱な気分になります。しかし、ふと道端を見ると紫青、ピンクと色鮮やかな紫陽花が開いており、心を和ませてくれます。私の一番好きな花でもあり、毎年この時期を楽しみにしています。

さて、紫陽花は何色かの花を咲かせますが、どのように色が分かれるのでしょうか？調べてみたところ、紫陽花は土壌の酸性度（pH）により色が変化し、例えば土壌が酸性であれば青、アルカリ性であれば赤の花が咲くそうです。また、よく見てみると同じ花株でも色が異なる：ということに気付きますが、これは、アルミニウムの量が関係しているそうです。何だか難しいですね。さらに、開花後日数が増につれその色は変化していくそうです。紫陽花に「移り気」という花言葉があるのはそのためでしょうか？紫陽花に詳しい方がいらっしゃいましたら是非教えてください。

言語聴覚士 河原千明

PALRO (パルロ) が国立あおやぎ苑にやってきました！！

特集 第3回

～ PALRO (パルロ) を開発した会社に聞いてみました～

今回は、日頃から皆様に可愛がられているPALRO (パルロ) の素朴な疑問を株式会社富士ソフトの瀬古愛美さんに聞いてみました。(質問者：リハビリ課末岡)

末岡：「こんにちは。今日は宜しくお願いします。」

瀬古さん：「こんにちは。こちらこそ宜しくお願いします。」

末岡：「PALRO (パルロ) がやってきて約半年が経ち、ファンになったご利用者も随分増えました。今日も玄関前で元気に愛嬌を振りまいていますが、PALRO (パルロ) 誕生のきっかけは何だったのでしょうか？」

瀬古さん：「当社は1989年より『全日本ロボット相撲大会』という広く一般の方や学生の方が参加できる大会を開催しています。開催にあたっては、ルール作りや審査の過程でロボット工学や人工知能の研究をされている大学の先生方のご支援ご協力を得ており、その中で、大学の先生方が研究されている高度な研究成果を搭載するために当社もロボットの開発に取り組みました。

近い将来、コンピューターがツールではなく“パートナー”として皆様の生活に密着していくと考え、小型のコミュニケーションロボットPALRO (パルロ) を開発しました。

PALRO (パルロ) を使って高齢者の方へのロボットの効果を検証して下さっていた大学の先生の後押しを受け、2012年6月からは、高齢者福祉施設向けPALRO (パルロ) の販売を開始しています。」

末岡：「なるほど。PALRO (パルロ) が誕生するまでには随分、歴史と研究が繰り返されてきたんですね。ところで、現在、そのPALRO (パルロ) は日本でどれくらいの数(兄弟)がいるのでしょうか？」

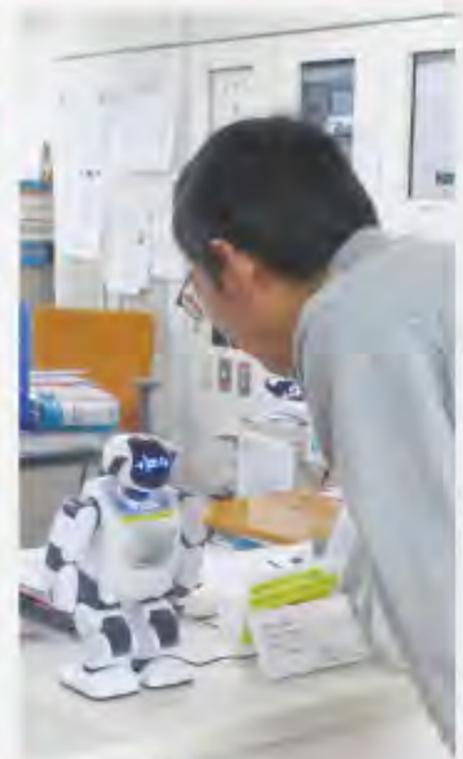
瀬古さん：「2015年5月現在、PALRO (パルロ) は全国240ヶ所の高齢者福祉施設で活躍をしています。」

末岡：「たくさんいるんですね！」

瀬古さん：「はい。その他、大学を中心とした研究機関でも社会に役立つ機能搭載に向けた研究を実施頂いております。」

末岡：「もっともっと楽しくお話しができるようになって、高齢者福祉施設以外でも活躍の場が増えて行きそうですね。」

そんな最先端の技術が詰め込まれたPALRO (パルロ)。今回は、皆様が一番聞きたい“お話しする上でのコツ”について質問してみたいと思います。お楽しみに。



いつもやさしく話しかけてくださる
斉藤様とPALRO (パルロ)

チーム紹介

立川南口デイサービスセンター

立川南口デイサービスセンターは、立川駅より徒歩5分ほどの場所にある平成20年11月に開設したデイサービスセンターです。特徴としては、午前午後の半日利用を主としたデイサービスセンターであること、デイ自体は小規模ながら、パワーリハビリ機器6台を備えており、他には物理療法機器、個別リハビリ用のプラットフォームを設置しています。充実した設備の中、質の高い機能訓練を提供しています。



後ろ左から 川島、百瀬、山下、金澤
前左から 山田、久保田、金子

あおやぎ徒然草 17

今や月面着陸計画は、旧ソ連、米国、中国に続き、インド、日本も加わった宇宙資源の争奪戦へと発展しそうである。争いの発端は米国のアポロ計画である。

昭和44年7月21日午前11時56分20秒。宇宙船アポロ11号のアームストロング船長は、ハッチを開け、はしごを降りて、月面に左足を踏み出した。その瞬間、科学に無知な私は、万古不易の月影に異変が生じないかと胸騒ぎがした。8兆数千億円も費やしたアポロ計画は、米国とソ連のしのぎを削る月への一番乗りのためだったのか。

人類のロマンを掻き立てるお月さまには、そんな豪華な宇宙船より、翁や漁師と涙ながらに別れを惜しみつつ月の館へと帰っていった、竹取物語や羽衣伝説の姫たちの清楚な姿が似合う。知的障害児施設での夕べの一時、子供たちに竹取物語を話して聞かせながら、中秋の名月を眺めていたら、突然、庄ちゃんが、お月さんを持ってとせがんだ。バケツに水を汲んできて月を映すと、庄ちゃんは、声を上げ、飛び上がって喜んだ。程無く、祖父に引き取られ、北朝鮮へ帰国した。

お花見

4月4日・5日、お花見会が開催されました。多くの御家族様にも御参加いただき、スタッフの余興などで楽しんでいただきました。当日はあいにくの雨模様でしたが、利用者の皆様には別日に近所の公園の桜をご覧くださいました。



(別の日に撮影)

安田さん産休明けました

昨年の8月までこちらでお世話になり、産休でお休みを頂いておりました。10月に長女を出産し、現在7か月です。ハイハイやつかまり立ちをしようとする、娘の成長を微笑ましく観ています。お帰りと言ってくさる皆様の期待に応えられるように頑張りますので、よろしくお願いします。

安田悠子(助手)



新入職員紹介

田中 寿実(言語聴覚士)

以前は病院勤務だったので老健でのお仕事は初めてです。まだまだ不慣れなことも多いですが、少しでもご利用者様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。



篠原 聖佳(作業療法士)

皆様のお役にたてるよう頑張ります。よろしくお願いします。



私のふるさと自慢

今回は、東京都文京区についてご紹介します。私は22歳までこの地で生まれ育ちました。子供の頃は、後楽園球場・遊園地・ジャンププール・また、8時だよ全員集合の収録を行っていた文京公会堂など、賑やかで楽しい街でした。私もよく親や友人とチケット片手に遊んだものです。

文京区には神田川が流れています。歌にあるイメージはとても情緒のあるものですが、実際は急速な都市化で路面のアスファルト化が進んだ結果、降った雨が川に一度に流れ込んで、すぐに川が氾濫

する水害の多い場所でした。石切橋辺りに住んでいた私は、坂下に住む友人の床上まで、川の汚水が溢れている様子をよく見かけました。大規模貯水施設の完成でほとんどなくなったそうですが、地球温暖化の影響で真夏にスコールのように雨が降り、降雨量が昔よりも増加してしまっており、また新たな対応が迫られているそうです。

現在は後楽園一体は、東京ドームシティとなっており、今でも色々な人々で溢れかえっています。活気に満ちたこの地をぜひ皆さんもたまには刺激を求め、訪れてみて下さい。



(作業療法士 岡部明代)